

社会教育委員研究について

1. 研修会名

令和7年度愛知県社会教育委員会連絡協議会東尾張研修会

2. 趣旨

東尾張支部各市町の社会教育委員ならびに社会教育関係者が日頃の実践研修活動の成果を発表し、諸課題について研修を行うことで、社会教育の充実と振興を図る。

3. 主催

愛知県社会教育委員連絡協議会東尾張支部

4. 日時

2026年11月13日（木）午後1時から午後4時

5. 会場

北名古屋市総合福祉センターもえの丘 ふれあい健康ルーム

6. 参加者

各市町社会教育委員及び教育委員会等担当者
尾張教育事務所及び知多教育事務所関係者

7. 東浦町研究発表について

(1) 研究発表テーマ

「高齢者が生き生きと活躍できる社会づくりのための一考察
—東浦町『ハロー！セカンドライフ』構想—」

(2) 発表者

発表—平井伸幸委員、スライド操作—高崎義幸委員
質疑応答対応—石原弘幸委員、平井伸幸委員、高崎義幸委員

(3) 発表内容に対する東浦町への質疑応答

Q. 本研究における「高齢者」の定義は何歳からか。（東郷町からの参加者より）

A. 65歳以上である。アンケート調査については、高齢者の団体等に依頼したため、65歳未満の方も含まれている。

Q. ホームページ「ハロー！セカンドライフ」は誰が作製したのか。行政職員が作製したのか、または業者へ外注したのか。（尾張旭市からの参加者より）

A. 発表で紹介したホームページは仮のテスト用ホームページである。東浦町社会教育委員が研究の一環で、自分たちで作製した。

(4) 指導講評 愛知県教育委員会あいちの学び推進課 都築 太 氏

【東浦町への指導講評概要】

素晴らしい実践内容である。人生 100 時代と言われ、人々が定年後にどのように過ごしていくかということは、日本の課題となっている。地域の高齢者にとって、自分らしく生きていくための情報提供を行うという研究内容が特徴であるといえる。社会教育委員の皆さんが、時間をかけて調査を丁寧に行うとともに、豊田市の事例を参考に、東浦町の課題を明確にできている。行政との協力連携もできており、社会教育委員が、行政へ地域の課題を提言している点は、社会教育委員の役割を果たしているといえる。

「ハローセカンドライフ」構想のホームページや冊子に、二次元コードを取り入れ最先端技術の活用している点や、ホームページの団体紹介動画を地域の小中学生へ制作してもらうことを想定する点は、子どもたちが地域の高齢者と関わる機会の創出にもつながっている。高齢者と子どもたちが互いに学びあう関係性は、地域全体が学びの場となることにつながる。